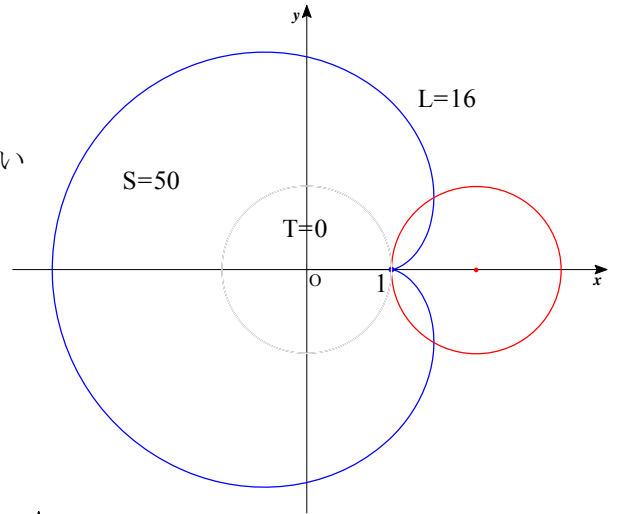
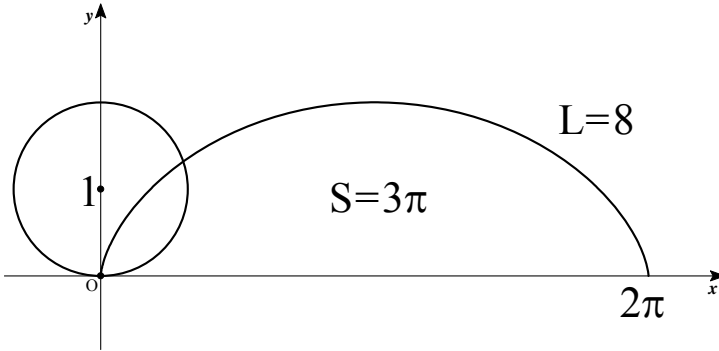


素朴なアイデアでサイクロイドなどの長さや面積を求める

微積分を用いた方法は座標・極形式などを用いた方法がいくつもありよく知られている。微積分学の成立以前にも、それらの値は知られていた。ここでは、はじめ、外(内)サイクロイドの長さ・面積を微積分の力を借りて求め、サイクロイド・カージオイドに当てはめる。次いで素朴な方法でそれらを確認する。

§0 サイクロイド・カージオイドの長さや面積

動円の半径が1であるサイクロイドとカージオイドについて、それぞれの長さおよび面積は、図のようである。



§1 外サイクロイドの長さや面積の計算

(1) 外サイクロイドについて

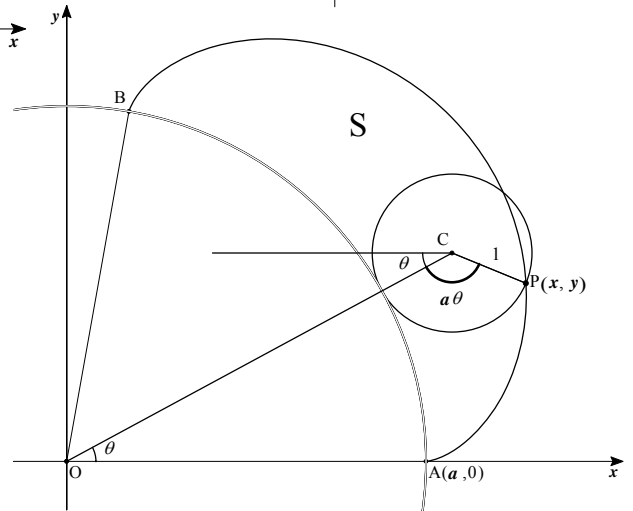
定円の中心をO、半径を a 、動円の半径を1とすると、

$$x = (a+1)\cos\theta - \cos((a+1)\theta)$$

$$y = (a+1)\sin\theta - \sin((a+1)\theta)$$

となる。よって、

$$\frac{dx}{d\theta} = -(a+1)(\sin\theta - \sin((a+1)\theta)) \quad , \quad \frac{dy}{d\theta} = (a+1)(\cos\theta - \cos((a+1)\theta))$$



弧APBの長さ L

$$\begin{aligned} \left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2 &= (a+1)^2 \{1 + 1 - 2\sin\theta\sin((a+1)\theta) - 2\cos\theta\cos((a+1)\theta)\} \\ &= 2(a+1)^2 \{1 - \cos a\theta\} \\ &= 4(a+1)^2 \sin^2 \frac{a\theta}{2} \end{aligned}$$

$$L = \int_0^{2\pi} \sqrt{\left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2} d\theta = \int_0^{2\pi} 2(a+1) \sin \frac{a\theta}{2} d\theta = \left[-2(a+1) \frac{2}{a} \cos \frac{a\theta}{2} \right]_0^{2\pi}$$

$$= 4(a+1) \frac{2}{a} = 8 \left(1 + \frac{1}{a}\right)$$

となる。

図形OAPBO面積 S_1

x, y は共に θ で 1 回以上微分できる。従って、 $S_1 = \frac{1}{2} \int_0^{2\pi/a} \left\{ x \frac{dy}{d\theta} - y \frac{dx}{d\theta} \right\} d\theta$ である。

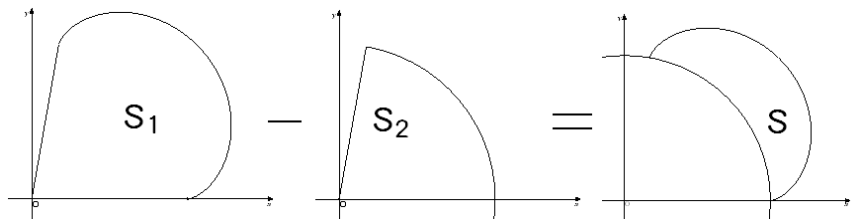
$$\begin{aligned} x \frac{dy}{d\theta} - y \frac{dx}{d\theta} &= (a+1)((a+1)\cos\theta - \cos((a+1)\theta))(\cos\theta - \cos((a+1)\theta)) \\ &\quad + (a+1)((a+1)\sin\theta - \sin((a+1)\theta))(\sin\theta - \sin((a+1)\theta)) \\ &= (a+1)\{(a+1)+1 - (a+2)(\cos((a+1)\theta)\cos\theta + \sin((a+1)\theta)\sin\theta)\} \\ &= (a+1)(a+2)\{1 - \cos((a+1)\theta - \theta)\} \\ &= (a+1)(a+2)(1 - \cos a\theta) \end{aligned}$$

よって、

$$S_1 = \frac{1}{2} \int_0^{2\pi/a} (a+1)(a+2)(1 - \cos a\theta) d\theta = \frac{1}{2} (a+1)(a+2) \left[\theta + \frac{1}{a} \sin a\theta \right]_0^{2\pi/a} = \frac{1}{a} (a+1)(a+2)\pi$$

扇型OAB面積 S_2

$$S_2 = \frac{2\pi}{2\pi} \cdot \frac{a}{2\pi} \cdot \pi a^2 = a\pi$$



外サイクロイドと円Oの間の面積 S

$$S = S_1 - S_2 = \frac{1}{a} (a+1)(a+2)\pi - a\pi = \frac{1}{a} (a^2 + 3a + 2 - a^2)\pi = \left(3 + \frac{2}{a}\right)\pi$$

となる。

(2) 内サイクロイドについて

外サイクロイドと同様に、

$$L = 8\left(1 - \frac{1}{a}\right), \quad T = \left(3 - \frac{2}{a}\right)\pi$$

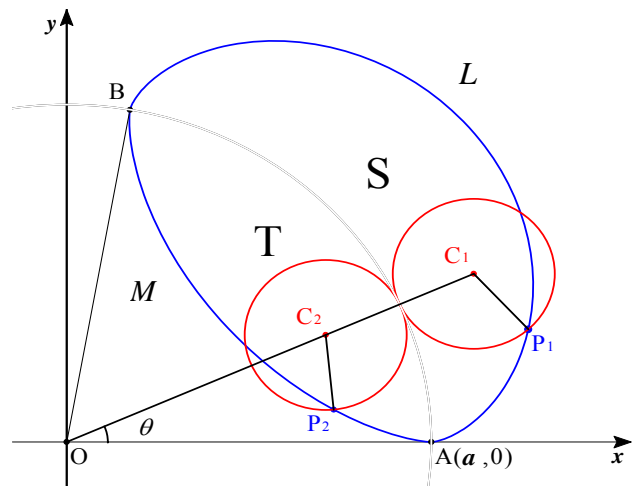
となる。(詳細は参考 (I))

外サイクロイドと内サイクロイドの作る図形

$$L + M = 8\left(1 + \frac{1}{a}\right) + 8\left(1 - \frac{1}{a}\right) = 16$$

$$S + T = \left(3 + \frac{2}{a}\right)\pi + \left(3 - \frac{2}{a}\right)\pi = 6\pi$$

であり、定円の半径 a に従属しない。



§ 2 サイクロイドとカージオイドの長さとお面積

(1) 外サイクロイドにおいて定円の半径を $a=1$ とすれば、

$$L = 8 \left(1 + \frac{1}{a} \right) = 16 \quad , \quad S = \left(3 + \frac{2}{a} \right) \pi = 5\pi$$

となり、**カージオイドの長さとお面積**を得る。

(2) 同様に、定円の半径 a を無限大とする。つまり、 $a \rightarrow \infty$ とすれば、

$$L = 8 \left(1 + \frac{1}{a} \right) \rightarrow 8 \quad , \quad S = \left(3 + \frac{2}{a} \right) \pi \rightarrow 3\pi$$

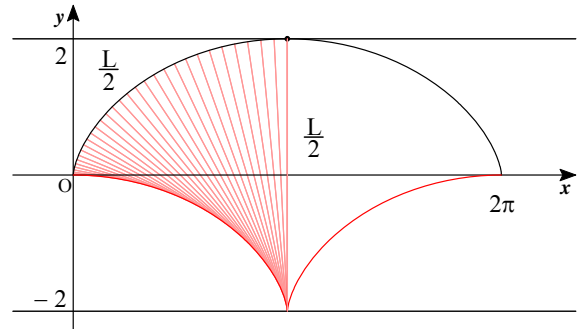
となり、**サイクロイドの長さとお面積**を得る。

§ 4 微分積分を使わない方法について

(1) **長さ**

サイクロイドの縮閉線(エボリュート, evolute)は、サイクロイドになる。したがって、サイクロイドの伸開線(インボリュート, involute)もサイクロイドである。**【注1】**・・・参考の(IV)

右の図で $\frac{L}{2} = 4$ 、したがって $L = 8$ となる。



さて、外サイクロイドの縮閉線は、相似な外サイクロイドになる。図のように、大小2つの外サイクロイドの長さを、それぞれ L, M とする。今、相似比は $(a+2):a$ であるので、

$$L : M = (a+2) : a$$

つまり、 $L = \frac{a+2}{a} M$

また、線分 PO の長さを考えることにより、

$$(a+2) : a = a : \left(a + 2 - \frac{M}{2} \right) \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

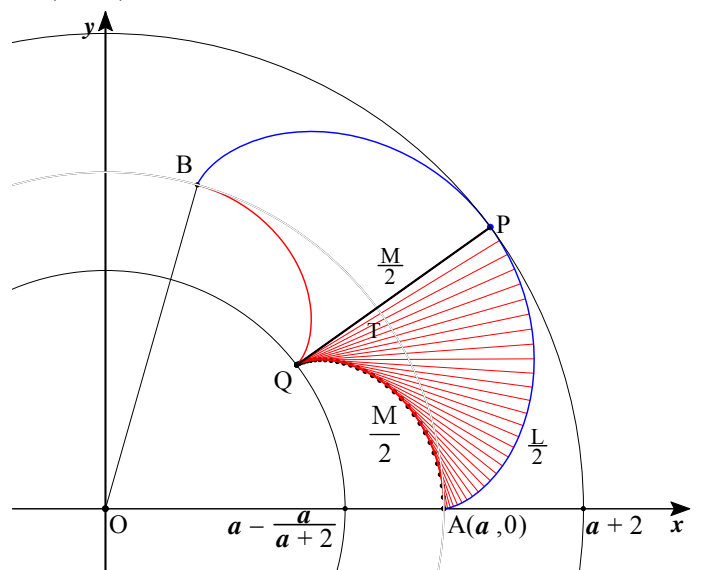
②より

$$a^2 + 4a + 4 - \frac{1}{2}(a+2)M = a^2$$

となり、 $M = 8 \cdot \frac{a+1}{a+2}$ を得る。したがって、

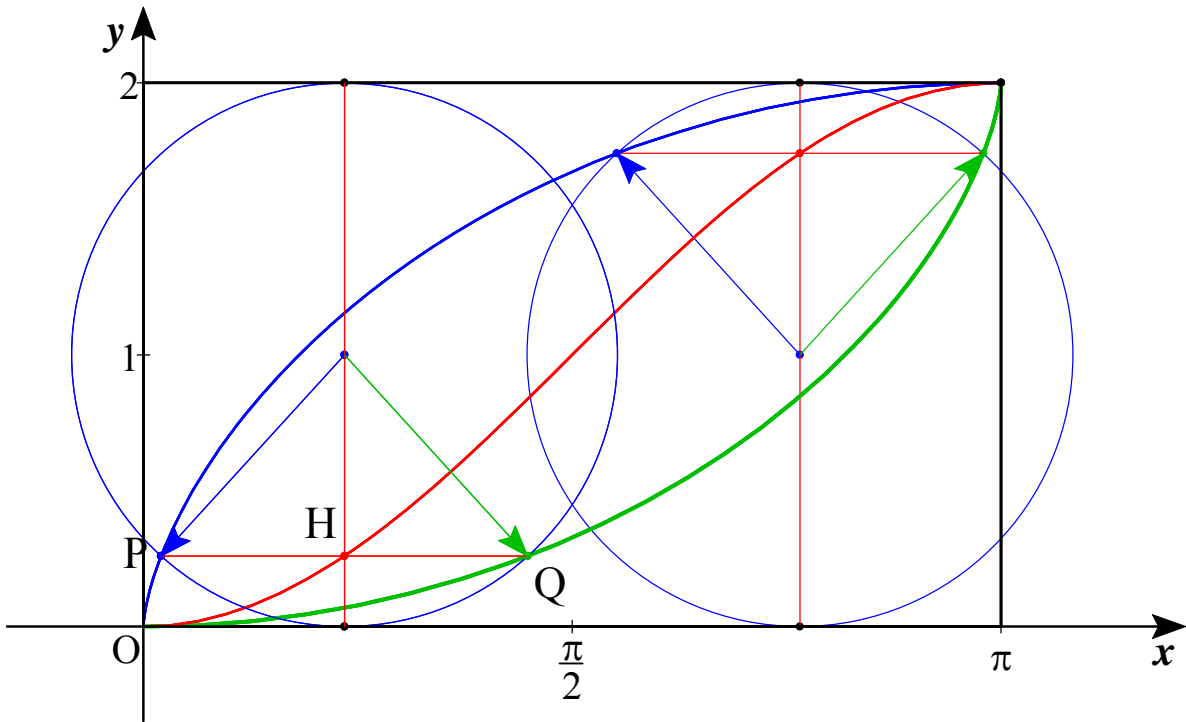
$$L = \frac{a+2}{a} \times 8 \cdot \frac{a+1}{a+2} = 8 \cdot \frac{a+1}{a} = 8 \left(1 + \frac{1}{a} \right)$$

となり、微積分を用いなくて外サイクロイドの長さを求めることができた。



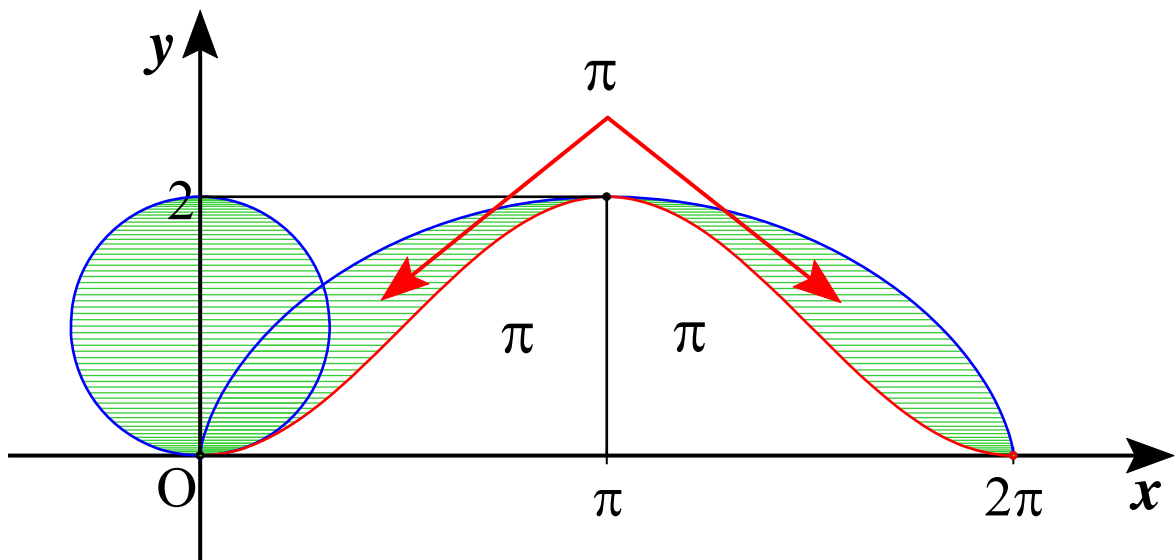
(2) 面積

サイクロイドの面積



サイクロイド上の点Pから、 y 軸に平行な動円の直径に下ろした垂線の足をHとする。上の図より明らかに、点Hの軌跡は縦2、横 π の長方形を二等分する。

よって点Hの軌跡と x 軸の間の面積は、 2π となる。



最後に、サイクロイドと点Hの軌跡の間の面積であるが、点Pが1回転する間の直径への垂線PHの長さであるので、それは円の面積と等しい。したがって、サイクロイドと x 軸の間の面積は、 3π となる。

※このみごとな論法は、ローベルバル（1602-1675）による。

参考

(I) 内サイクロイドについて

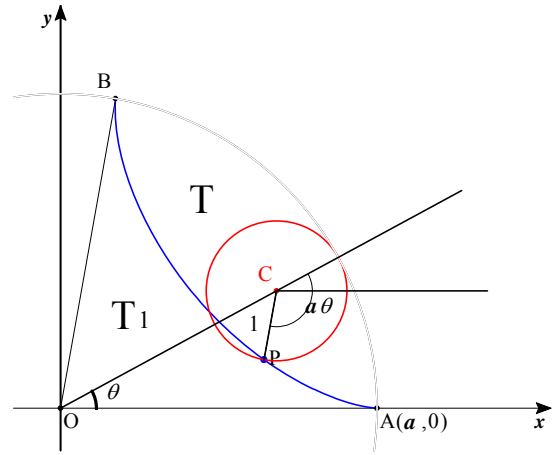
定円の中心を O 半径を a 、動円の半径を 1 とすると、

$$x = (a-1)\cos\theta + \cos((a-1)\theta)$$

$$y = (a-1)\sin\theta - \sin((a-1)\theta)$$

となる。

$$\frac{dx}{d\theta} = -(a-1)(\sin\theta + \sin((a-1)\theta)) \quad , \quad \frac{dy}{d\theta} = (a-1)(\cos\theta - \cos((a-1)\theta))$$



弧 APB の長さ M

$$\begin{aligned} \left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2 &= (a-1)^2 \{1 + 1 - 2\sin\theta\sin((a-1)\theta) - 2\cos\theta\cos((a-1)\theta)\} \\ &= 2(a-1)^2 \{1 - \cos a\theta\} \\ &= 4(a-1)^2 \sin^2 \frac{a\theta}{2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} M &= \int_0^{2\pi} \sqrt{\left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2} d\theta = \int_0^{2\pi} 2(a-1) \sin \frac{a\theta}{2} d\theta = \left[-2(a-1) \frac{2}{a} \cos \frac{a\theta}{2} \right]_0^{2\pi} \\ &= -4(a-1) \left(-\frac{2}{a} \right) = 8 \left(1 - \frac{1}{a} \right) \end{aligned}$$

図形 $OAPBO$ 面積 T_1

$$\begin{aligned} x \frac{dy}{d\theta} - y \frac{dx}{d\theta} &= (a-1) \{ (a-1)\cos\theta + \cos((a-1)\theta) \} (\cos\theta - \cos((a-1)\theta)) \\ &\quad + (a-1) \{ (a-1)\sin\theta - \sin((a-1)\theta) \} (\sin\theta + \sin((a-1)\theta)) \\ &= (a-1) \{ (a-1) - 1 - (a-2)(\cos((a-1)\theta)\cos\theta + \sin((a-1)\theta)\sin\theta) \} \\ &= (a-1)(a-2) \{ 1 - \cos((a-1)\theta + \theta) \} \\ &= (a+1)(a+2)(1 - \cos a\theta) \end{aligned}$$

よって、

$$T_1 = \frac{1}{2} \int_0^{2\pi} (a-1)(a-2)(1 - \cos a\theta) d\theta = \frac{1}{2} (a-1)(a-2) \left[\theta - \frac{1}{a} \sin a\theta \right]_0^{2\pi} = \frac{1}{a} (a-1)(a-2)\pi$$

扇型 OAB 面積 S_2

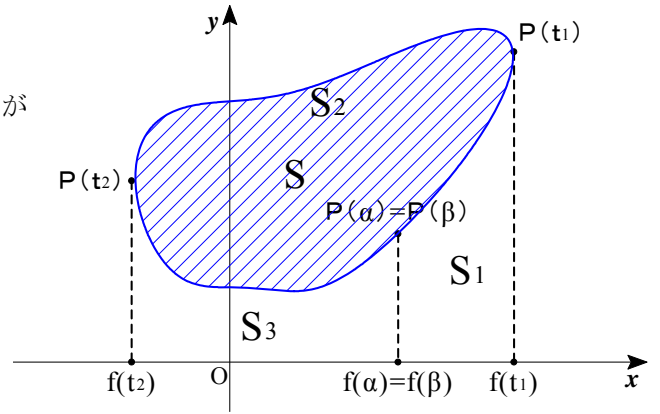
$$S_2 = a\pi$$

内サイクロイドと円 O の間の面積 T

$$T = S_2 - T_1 = a\pi - \frac{1}{a} (a-1)(a-2)\pi = \frac{1}{a} (a^2 - a^2 + 3a - 2)\pi = \left(3 - \frac{2}{a} \right) \pi$$

(II) C₁級の閉曲線で囲まれた図形の面積について

C₁級の閉曲線L (動点P(x, y), x = f(t), y = g(t), α ≤ t ≤ β)が
左側に囲む面積をSとする。



$$S_1 = \int_{f(\alpha)}^{f(t_1)} y dx = \int_{\alpha}^{t_1} y \frac{dx}{dt} dt$$

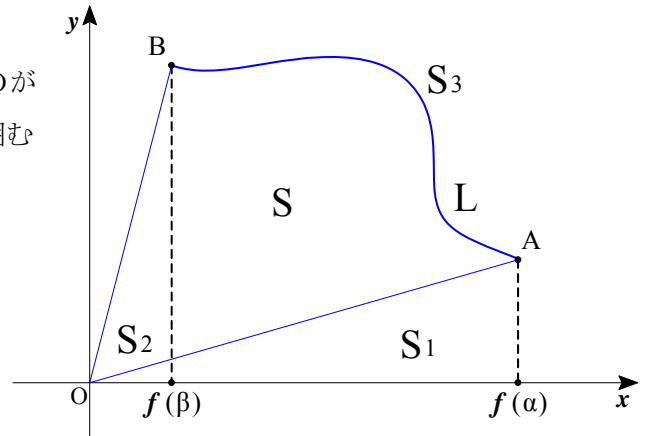
$$S_2 = - \int_{f(t_2)}^{f(t_1)} y dx = - \int_{t_1}^{t_2} y \frac{dx}{dt} dt$$

$$S_3 = \int_{f(t_2)}^{f(\alpha)} y dx = \int_{t_2}^{\alpha} y \frac{dx}{dt} dt$$

$$S = S_2 - S_1 - S_3 = - \int_{t_1}^{t_2} y \frac{dx}{dt} dt - \int_{\alpha}^{t_1} y \frac{dx}{dt} dt - \int_{t_2}^{\alpha} y \frac{dx}{dt} dt = - \int_{\alpha}^{\beta} y \frac{dx}{dt} dt$$

(III) ある閉曲線で囲まれた図形の面積

C₁級の曲線L (動点P(x, y), x = f(t), y = g(t), α ≤ t ≤ β)と
その両端の点A (f(α), g(α)), B (f(β), g(β))と原点Oが
り、図形OA ∪ L ∪ BOが閉曲線となり、その左側に囲む
図形の面積をSとする。



$$S_1 = \frac{1}{2} f(\alpha) g(\alpha)$$

$$S_2 = \int_{f(\beta)}^{f(\alpha)} y dx = \int_{\beta}^{\alpha} y \frac{dx}{dt} dt$$

$$S_3 = \frac{1}{2} f(\beta) g(\beta)$$

$$S = S_2 + S_3 - S_1 = \int_{\beta}^{\alpha} y \frac{dx}{dt} dt + \frac{1}{2} f(\beta) g(\beta) - \frac{1}{2} f(\alpha) g(\alpha)$$

$$= \int_{\beta}^{\alpha} y \frac{dx}{dt} dt - \frac{1}{2} [f(t)g(t)]_{\beta}^{\alpha}$$

$$= \int_{\beta}^{\alpha} y \frac{dx}{dt} dt - \frac{1}{2} \int_{\beta}^{\alpha} (f'(t)g(t) + f(t)g'(t)) dt$$

$$= \int_{\beta}^{\alpha} \left(g(t)f'(t) - \frac{1}{2} f'(t)g(t) - \frac{1}{2} f(t)g'(t) \right) dt$$

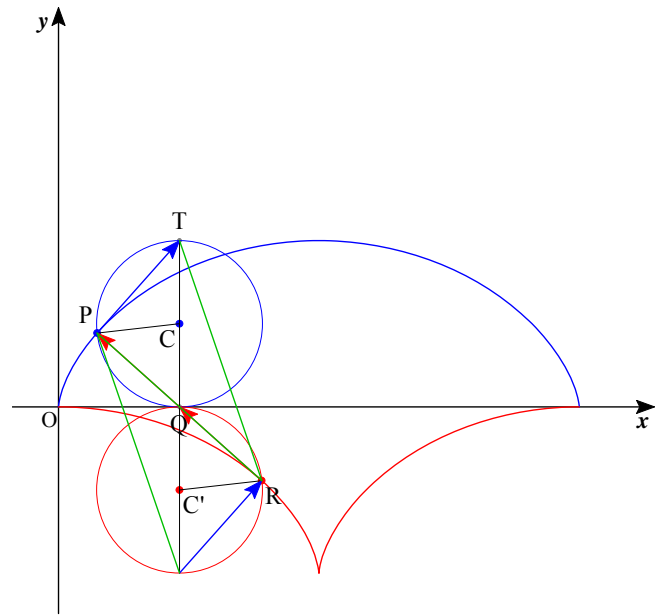
$$= \frac{1}{2} \int_{\beta}^{\alpha} (g(t)f'(t) - f(t)g'(t)) dt$$

$$= \frac{1}{2} \int_{\alpha}^{\beta} \left(x \frac{dy}{dt} - y \frac{dx}{dt} \right) dt$$

(IV) インボリュートとエボリュートの説明の図

..... 【注1】

動円Cをy軸方向に-2平行移動したものが動円C'とする。∠TPRが常に90°となることより、点Rは上のサイクロイドの縮閉線である。



これらサイクロイド(外サイクロイド)の合同(相似)の証明のアイデアは大阪教育大学附属池田校舎・教諭友田勝久氏のものです。

※ 参考URL

<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~tomodak/report/index.html>

<http://horibe.jp/GrB1F.HTM>